

さらば、「私の」エヴァンゲリオン。 ～僕らは贖罪を終えて成仏出来たのだろうか？～

追手門学院大学心理学部 溝部 宏二

1. はじめに

2021年3月8日、『シン・エヴァンゲリオン劇場版：||』が公開された。1995年10月4日に放送が開始されたTV版『新世紀エヴァンゲリオン』から数えて実に25年の歳月を経ての完結である。「さらば、全てのエヴァンゲリオン。」とポスターにもホームページのタイトルにも記載されており、劇中でも碇シンジくん自ら「さようなら、全てのエヴァンゲリオン」と述べて駄目押しをしている。20年程エヴァンゲリオンを追いかけてきた筆者としても、「本当に終わるのか！」との思いに駆られて劇場では多くのオジサンたちと共に涙を流したのである。庵野総監督自身が「さらば、全てのエヴァンゲリオン。」とエヴァのいない世界へと決別宣言したのだから、ファンとしても「さらば、『私の』エヴァンゲリオン。」と言うしかないであろう。エヴァンゲリオン公式サイト（庵野，2021）には、渚に立つアスカ・マリ・シンジ・レイ・カヲルを背景に「さらば、全てのエヴァンゲリオン」のタイトルに続いて、『シン・エヴァンゲリオン劇場版：||』3.0+1.0のページに切り替わりIntroductionには以下の煽り文句が記載してある。「エヴァがついに完結する。2007年から『エヴァンゲリオン新劇場版』シリーズとして再起動し、『：序』『：破』『：Q』の3作を公開してきた。その最新作、第4部『シン・エヴァンゲリオン劇場版』の劇場公開が決定。人の本質とは何か？ 人は何のために生きるのか？ エヴァの

テーマは、いつの時代にも通じる普遍的な核を持っている。シンジ、レイ、アスカ、マリ、個性にあふれたキャラクターたちが、人造人間エヴァンゲリオンに搭乗し、それぞれの生き方を模索する。人と世界の再生を視野に入れた壮大な世界観と細部まで作り込まれた緻密な設定、デジタル技術を駆使した最新映像が次々と登場し、美しいデザインと色彩、情感あふれる表現が心に刺さる。スピーディーで濃密、一度観たら病みつきになるその語り口は、興行収入80億円超えの大作『シン・ゴジラ』も記憶に新しい庵野秀明総監督による独特の境地。その庵野総監督がアニメーションのフィールドで創作の原点に立ち返り、新たな構想と心境によって2012年の『エヴァンゲリオン新劇場版：Q』以後、封印されてきた物語の続きを語る。1995年にTVシリーズ『新世紀エヴァンゲリオン』でアニメファンのみならず、アーティストや学者までを巻き込んで社会現象を起こした初出から、実に25年その間、常にエポックメイキングであり続けたエヴァの、新たな姿を見届けよう。」こう言っては失礼だが、あのエヴァのラストを飾るIntroductionにしては平凡過ぎる印象であることは否めない。しかし、むしろ平凡過ぎる世界こそがエヴァのいない日常へ戻るラストにふさわしいのかもしれない。実際に『シン・エヴァンゲリオン劇場版：||』の観客動員数は公開136日間で669万人に到達し興行収入は102.2億円以上であり、庵野総監督最大のヒット作『シン・ゴジラ』を大幅に超えた（ファミリー層まで巻き込んで史上最高の興

行収入を達成した『鬼滅の刃 無限列車編』の403.2億円には遠く及ばないもののエヴァンゲリオンの様なマニアックな映画にしては画期的数字であろう)。映画が公開されると様々なコアなファンが既に多くの考察を『シン・エヴァンゲリオン劇場版:||』について実施しているので、筆者が何か付け加えることなど何もない気もする。様々なエヴァのバージョンのみならず、庵野総監督の過去の作品群やインタビューまで考察対象として、メタポジションから徹底的に調べ上げているもの（藤田，2021）も散見される。また、今まで敢えて不親切に解説もなく様々な用語が用いられてきた経緯や関係性の種明かしが劇

中で語られているので謎解きに関わる必要性は少なくなったものと思われる。全てのエヴァンゲリオンをつまびらかに説明することで、憶測やファンタジーの介在を極力減らして物語の收拾を図っているのであろうか。そんな状況で筆者が何か付け加える事が許されるならば、精神科医として主人公の碇シンジくんの親子関係に焦点を合わせて、筆者自身が多少関わりを持つ精神分析や内観療法を通して考察すること位であろうか。

なおエヴァンゲリオンには様々なバージョンが存在（表1.）しており、それらを区別する必要性が出てくる。この小論中では、他の多くの論考と同様に、TVシリーズ『新

表1. エヴァの変遷

公開年月	略称	タイトル	補足
1995年10月4日～1996年3月27日	TV版	新世紀エヴァンゲリオン	第壹話～第貳拾伍話・最終話
1994年12月～2013年6月	漫画版	新世紀エヴァンゲリオン	月刊少年エース→ヤングエース連載
1997年3月15日～1997年7月19日～	旧劇場版	新世紀エヴァンゲリオン劇場版 シト新生 新世紀エヴァンゲリオン劇場版 Air/まごころを、君に	シト新生「DEATH」編はTV版の第壹話～第貳拾四話「REBIRTH」編は第貳拾伍話→DVDでは(TRUE)に改定「Air」は第25話「まごころを、君に」は第26話
2007年9月1日～	:序	エヴァンゲリオン新劇場版:序	TV版第壹話～第六話(ヤシマ作戦)まで
2009年6月27日～	:破	エヴァンゲリオン新劇場版:破	従来とは異なるストーリーが展開(アスカ登場～ニアサードインパクト)
2012年11月17日～	:Q	エヴァンゲリオン新劇場版:Q	「新劇場版:破」から14年後の世界(NERVとWILLEの争い)
2021年3月8日～	シン・	シン・エヴァンゲリオン劇場版:	25年間続いたエヴァの完結作(エヴァの無い新たな世界への展開)

世紀エヴァンゲリオン』（庵野，2003a）を『TV版』、『新世紀エヴァンゲリオン劇場版 Air/まごころを、君に』（庵野，2003b）を『旧劇場版』、『エヴァンゲリオン新劇場版:序』（庵野，2009）を『:序』、『エヴァンゲリオン新劇場版:破』（庵野，2010）を『:破』、『エヴァンゲリオン新劇場版:Q』（庵野，2013）を『:Q』、『シン・エヴァンゲリオン劇場版:||』を『シン・』、『:序』『:破』『:Q』『シン・』を合わせて『新劇場版』、貞本義行作のコミック『新世紀エヴァンゲリオン』（貞本，1995～2014）を『漫画版』と表記する。また、「汎用人型決

戦兵器人造人間エヴァンゲリオン」という人造人間そのものを示す場合は「エヴァ」、限定なく『全てのエヴァンゲリオン』に対して用いる場合を、ただ単にエヴァと表記する。なお、当小論には多くの「ネタバレ」を含んでおりその点も合わせて申し添えておく。

2. なぜエヴァについて語りたがるのか

筆者は過去2度に渡ってエヴァに関する小論を記載してきた（溝部，2012, 2017）。ここでは、なぜ『新世紀エヴァンゲリオン』が社会現象となる程多くの若者（一部の大人）

の心を捉えたのであろうか？よく言われているのは、謎解きの面白さである（前述の「曖昧な部分」が意図的？に散りばめてある）。物語のあちこちにキリスト教・ユダヤ教・精神分析・進化論・脳科学・遺伝学などオタク心をくすぐる仕掛けがたくさんあり、仕掛けを調べるうちに自分なりの「エヴァンゲリオンの世界観（ファンタジー）」を持つに至り『ハマる』のであろう（『ハマる』とは快感物質であるドーパミンが大量に分泌される状況である。「薬物依存」や「ゲーム依存」など嗜癖と同様のメカニズムである）。しかし、その様なコアなファンが「すごいぜ！」と啓蒙しても爆発的人気となるには普遍的関心を引く部分がなければ不可能であろう。そこで筆者は、誰もが辿ってきた「発達」特に「思春期前期の課題」に焦点を当てて『『わかもの』と思春期前期の発達課題の克服過程』としてエヴァを観ていくとエヴァについて語る動機を記載している。さらに「思春期の患者を主に診療している精神科医である筆者は、新世紀を迎える辺りから、患者の口から『エヴァを観てください』『シンジくんは私そのものです』『人類補完計画があったら私の苦しみは無くなるのに』などの台詞を頻繁に聞く様になった。患者の内界を知る手掛かりになればと、推薦される映画やアニメ、漫画に書籍などは一応チェックするようにしており、エヴァンゲリオンもそうした作品の一つであった。いつもは軽くあらすじをなぞるだけのことが多いのであるが、エヴァにはハマったのである。」とエヴァにハマったのは、思春期を多く診る精神科医の職業的使命であったかの如く述べてもいる。これらは嘘ではない。しかし、エヴァにハマるには筆者自身がエヴァに親和性を感じる（シンクロする）何かがあったからに相違ないのである。筆者にとってのエヴァの魅力は、男児が通過しなければならないとされている父親との対決（特に父子関係の背後に見え隠れする母子

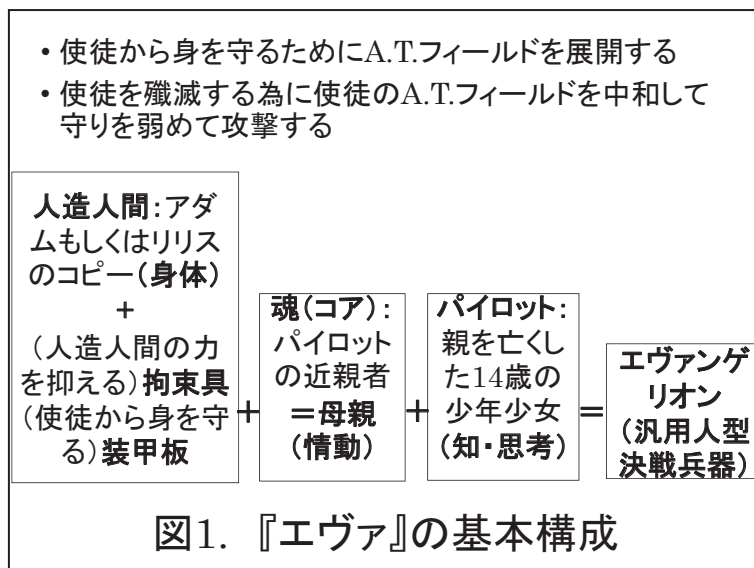
関係の重要性）をシンジくんのありかたを介して再体験させてくれた上で対人関係の雛型を考える機会を与えてくれる媒体であること（若者の視点：A.T.フィールドの存在意義）と、「個としての生命」が終わりに近づく老境に差し掛かっている筆者（庵野総監督と同年である）自身の「個を超えた生命」への憧憬を形にしてくれる（老人の視点：人類補完計画の是非）作品であることに他ならない。「はじめに」でも触れたが、本小論ではこの老若2つの視点を中心に「私の」エヴァンゲリオンについて論考を進めることとする。

3. 全てのエヴァンゲリオンの概説

先ず物語の概要を説明する前に、エヴァをあまりご存じない方用に**基礎用語の解説**が必要であろう。解説はエヴァンゲリオン用語・語源事典（オカルト雑学探究倶楽部編、2012）を参照とするが、出典がやや古いので『シン・』で明らかにされた事実を加味して概説する。ただし、重要ワードである「人類補完計画」は、どのバージョンでも断片的にしか明らかにされておらず物語の展開からの推測を含んでいる。

エヴァンゲリオン・コア：「エヴァ」は正体不明の生命体である「使徒」殲滅用に開発された「汎用人型決戦兵器」で、主人公碇シンジくんら母親のいない14歳の少年少女がパイロットとして搭乗して神経接続されて稼働する。肉体は「アダム」もしくは「リリス」という生命の祖をコピーしたものに拘束具としても機能する装甲板で武装している。使徒と同じく内部にコアという器官を有している。「エヴァ」のコアにはパイロットの母親等の魂が封印されており、パイロットと「エヴァ」のシンクロを仲介する（図1.）ことで、エヴァは稼働する。

アダム・リリス・白き月・黒き月・人類補完計画：有史以前の地球に生命を含んだ白き



月（本来地球で繁栄するはずであった使徒の祖「アダム」=生命の実を食べしもの、を含む）が南極に激突、続いて人類の発祥母胎となる黒き月（人類=リリン、の祖「リリス」=知恵の実を食べしもの、を含む）が箱根に衝突したファーストインパクトによって先に生まれていた使徒は眠りにつき、人類が繁栄した。秘密結社SEELEは南極で眠りについているアダムを発見し、調査中に覚醒したアダムをロンギヌスの槍を用いて再封印しようとして生じたものがセカンドインパクトである。永遠の生命を持つ使徒は神として進化しているが、知恵を持つ人類は科学力を用いて群体で生きるものから使徒の様に単体の生命体へ進化するはずであったが、知恵を持つが故に人類はいつまでも互いに争い傷つけあい進化の可能性を途絶させたまま漫然と存在し滅びを待つだけの生物になってしまっていた。そこでSEELEは、人類の進化を強制的にリセットして本来の「在るべき姿」（人類全体が負っている原罪【知恵の実を手に入れた】をまず贖罪し、生命が発生するより以前の状態にまで戻って新生しやり直す=Neon Genesis【新・創世記】）へ戻すことである「人類補完計画」を画策する。使徒に殲滅されて滅びるのではなく、自らの意志で贖罪（死滅）した後にあるべき姿で再生を目

指すのであるが、SEELEの下部組織であるNERV（名目上は国連直属の超法規的武装組織で「エヴァ」を保有する）の司令長官である碇ゲンドウの考える人類補完計画は、全ての使徒殲滅後その地位を奪い永遠に生き続ける単体生物として神になってしまおうというものであり、その動機が「エヴァ」に取り込まれた妻・ユイに再び会うことである。具体的には、サードインパクトを発生させることで人類の個体生命を消し去り、知恵を手に入れる以前の原始の状態に還り神の御心のままに進化する計画であり（SEELEの補完計画）、別の視点ではできそこないの群体である人類を「知恵の実」と「生命の実」を併せ持つ「完全な単体生物である神となる」べく人工進化させる計画と言える（ゲンドウの補完計画）。いずれにせよ、補完が生じる場合はその補完の中心（依り代）となる者の意志が反映される。

A.T.フィールド：Absolute Terror Fieldとは、全ての生命体が自らの個体生命を形成するために持っている排他的精神領域のこと。群体生物にとって自己を他者と隔てる障壁は自分を守るために必要ではあるが、その障壁のために分かり合うことが困難になる「誰もが持っている心の壁」でもある。使徒や「エヴァ」はA.T.フィールドを周囲に展開し

て、敵の攻撃に対して防御壁を築く。また自らのA.T.フィールドを展開することで相手のA.T.フィールドを中和することが可能となる。自らのA.T.フィールドを反転させると相手と癒合する。つまりA.T.フィールドを消失すると人類は個体を保持できなくなり羊水に似たL.C.L.という液体と化す。A.T.フィールドを無効化し個体の障壁を消失させるエネルギーをアンチA.T.フィールドと言うが、人類補完計画で重要な働きをするロンギヌスの槍はアンチA.T.フィールド発生装置である。ロンギヌスの槍を刺されると「エヴァ」は個体を保てなくなり人類補完計画が発動する。

エヴァのストーリーを概説するのはかなり難解である。理由は様々なバージョンで微妙に異なる物語が展開する上に、同じ『旧劇場版』だけでも劇場公開版とDVD版や脚本集などそれぞれが異なる展開を見せるなど整合性に欠ける点が挙げられる。これらはエヴァが「繰り返しの物語」であることに由来するためであろう。所謂「ループもの」と呼ばれる物語の中で登場人物が同じ期間を何度も繰り返すような設定を持つ作品だから簡潔に整合性のある物語として語ることが困難となるのである。「ループもの」のテーマは半永久的に反復される時間から何らかの方法で脱出することが物語の目標となるものが多いのであるが、エヴァの主人公シンジくんは「繰り返しの物語」と自覚はしていない。物語の執行者（円環する世界に記憶を維持したまま何度でも登場する存在）である渚カヲルが「シンジくんを幸せにしよう」と何度も何度も挑戦する物語だともいえる。しかし、「エヴァで伝えられているテーマは何か？」と問われたならば、「決して分かり合う事の出来ない他者とどの様に向き合うべきなのか」をA.T.フィールドの存在する意味を巡って人類を補完すべきか否かを問うている物語であると考えている。

西暦2000年、南極で地球規模の大爆発（セ

カンドインパクト：海の浄化）があり、人類の半分が死滅した。セカンドインパクトは、秘密結社SEELEが南極で発見されたアダム の調査中に覚醒したアダムをロンギヌスの槍を用いて再封印しようとして生じたものである。同時に世界の気温が上昇し、海は生命が存在しない死海（赤い海）となった。2015年、人類（祖リリスから生まれ、知恵の実を食べし原罪担うもの：別名リリン）は、その存在をおびやかす使徒（祖アダムから生まれ、生命の実を食べた永遠の命を持ちしもの）と呼ばれる謎の生命体に対して、人造人間エヴァンゲリオンという科学力（知恵の実の結果）を使って戦っていた。アダムから生まれし使徒がアダムに帰還すれば大規模な爆発が生じ（サードインパクト：大地の浄化）、人類は使徒により滅亡させられるのである。何故なら、未来を与えられる生命は人類か使徒か一つであるからであり、秘密結社SEELEは、「知恵がなく繁殖もしない代わりに無限の命で単体のまま自己進化を重ねて存在し続ける生命を持つ使徒こそ本来の地球の正統な住人である」と理解しており、人類は自ら滅亡することで神に贖罪しなければならないと考えている。エヴァンゲリオンを操縦するのは、碇シンジ、綾波レイ、惣流（式波）・アスカ・ラングレー等、母のない（孤独を抱えた）14歳の少年少女たちである（綾波レイがシンジの母親であるユイのクローンであることは全てのバージョンで一貫しているが、『TV版』『旧劇場場』（庵野，2003ab）の惣流・アスカ・ラングレーは『新劇場版』では式波・アスカ・ラングレーと名称変更され【惣流の？】クローンとなっている）。そして政府に疎まれながらも、全権を委ねられた特務機関NERVが舞台の中心となる。だが、NERVとその背後にあるSEELEは、全ての使徒（17番目の使徒：タブリス・渚カヲル『TV版』）を殲滅した後に、サードインパクトを発動させ人類補完計画を遂行する

（『TV版』では、シンジくんが自らの手でカヲルくんを殺した後、それぞれのメンバーの心の内側で自問自答が開始され、それを内側から俯瞰するシンジくんは行き詰まった人類を新たな段階に人工進化させる「人類補完計画」を心の中で進行させ、欠けたる心を補完して最後には他者によって自己が形成されていることを認め現実を受け入れ自己肯定に至る＝最終二話）。しかし、他のバージョンでは大きな違いがあり『旧劇場版』では最後の使徒【第13使徒である渚カヲル】の殲滅後にSEELEとNERVの対立は決定的となり、全面的な武力衝突となる（SEELEの補完計画は人類の手による滅亡にて贖罪を果たすこと、NERV【碇ゲンドウ】のものはエヴァを依り代としてゲンドウ主体に全ての人々の魂を集め単体として完全な生命体である神となること）。双方の「補完」が同時に進む中、どちらの補完計画にも必要なエヴァンゲリオン初号機のパイロット碇シンジくん全てが委ねられる。苦悩の末、彼はどちらの補完も肯定せず、もとの世界に戻ることを決意する。しかし、シンジくんの中途半端な気持ちが自分とアスカのみ肉体を実体化するにとどまって（他の人類は個としての形を失って融合したまま？）荒涼とした世界で二人だけが目を覚ます。ここに「新世紀」と共に「創世記」でもある“Neon Genesis”（新・創世記）が始まるのである。ここまでの『旧劇場版』の物語であり、『漫画版』はそれから長い年月が経ちエヴァのあった世界は遠い過去の遺跡として残っているだけで記憶は何も残っていないエヴァの存在しない世界が展開されている（貞本、1995～2014）。『新劇場版』の『：序』は『TV版』の前半6話までとはほぼ同一に進んでいる（庵野、2009）が、『：破』で今までのエヴァには無いほのぼのとした雰囲気醸し出しながら、シンジくんはお決まりのサードインパクトに邁進するのであるが、『新劇場版』では今までの誰かに強制されて

「エヴァ」に乗っていたのとは異なり自らの意志で決断する。その結果、人類の大半が死に至るニアサードインパクトを引き起こしてしまう（庵野、2010）。そして、ニアサードインパクトの14年後が『：Q』の世界になる（庵野、2013）。碇ゲンドウの人類補完計画を知ったNERVメンバーおよび生き残った民間人はNERV殲滅によるフォースインパクトの阻止を目的にレジスタンスとしてWILLEを立ち上げている。14年間宇宙空間に拘束されていたシンジくんは、自らが犯した罪を直視できずに以前と同様に回避的で自らは行動しない状況に舞い戻る。しかし、母親のクローンであるアヤナミレイ（仮称）の献身性にて自らの行動を慚愧した後立ち上がる。しかし、ゲンドウによりフォースインパクトが発動され全ての魂がエヴァンゲリオンイマジナリーの中へ取り込まれ単体生命になる（何故か、AAAヴンダーという主機搭乗のWILLEメンバーは個体を維持している）。シンジくんは、自らの命を賭して父親であるゲンドウと対峙する（ゲンドウは絶望の槍であるロンギヌスを、シンジくんは希望の槍であるカシウスを用いる）が、決着がつかずWILLEの仲間が紡いだガイウスの槍（絆の槍？・ありのままの槍？）で「エヴァ」初号機諸共自らを突き刺して、人類補完計画が完遂するアディショナルインパクト発現を阻止しようとする。そこに「エヴァ」初号機に取り込まれていた母親ユイが現れ、「エヴァ」初号機からシンジくんを脱出させ自らの手でゲンドウが搭乗している「エヴァ」13号機と共にガイウスの槍で突き刺し、同時に全てのエヴァンゲリオンも突き刺し消滅させる。人類補完計画の主体となったシンジくんの願い通りエヴァのない世界が出現する。それから14年後？アニメから飛び出した大人になったシンジくんとマリが現実世界を駆け抜ける場面で終劇となる。

4. 最終二話

『シン・』を観ての感想は、庵野総監督が伝えたかったのは、結局「最終二話」なんだと再認識したことである。最終二話とは、『TV版』第貳拾四話で、アスカ・レイを失ったシンジくんが、親友だと信じていた渚カヲルが第17番目のシトだと分かり「エヴァ」初号機の手で握りつぶした後、自閉的になったシンジくんの内面の語りだけをラフ画や台本を中心に構成されて今までの物語を拒絶する様で一見不可解な話である。そして最終話で、シンジくんが「僕はほくでしかない。僕はここにいてもいいんだ！」と悟る（覚醒する）とガラスが割れ青空が現れる。登場人物が拍手をしながら口々に「おめでとう！」と述べ、「父に、ありがとう。」「母に、さようなら。」「そして、全ての子供達に」「おめでとう」という字幕が出て終劇となる。当然、『TV版』の最終二話に関しては、放映当初から批判が多いものであった。筆者自身も否定的な見解を持ち以下のような感想を述べた。「最終二話（第貳拾伍話・最終話）」でも物語は完結しなかった（それまでの話の流れを全く無視した結末となっている所謂「夢オチ」）。そこで、様々な憶測や批判が集中した。解説本「エヴァンゲリオン快樂原則」（五十嵐編，1997）の中で大塚は、「現実と一切、切り離されたところで自己実現してしまう」と述べ、宮崎は「自己啓発セミナーやサイコセラピーの手法を物語の中に取り込んでいて、形を変えた癒しである」と述べ、ヒーリングや自分探しという共同体の幻想を憂いている。その後、1997年春に公開された映画「新世紀エヴァンゲリオン劇場版 シト新生（DEATH&REBIRTH）」（テレビ版の回想と完結編映画の予告的内容）を経て、1997年夏にテレビ版の最終二話をリメイクした形で（テレビ版の第貳拾四話に続く形式）映画「THE END OF EVANGELION

Air/まごころを、君に」が公開されてようやく完結した（溝部，2012）。しかし、批判が多いながらも表1にも記載しているがこの最終二話の後に作成された『旧劇場版（シト新生）』では第壹話～第貳拾四話を「DEATH」編として駆け足で紹介しているのに、第貳拾伍話を「REBIRTH【DVDだと（TRUE）²】」編として丁寧に再構成している。『旧劇場版（Air/まごころを、君に）』では、「REBIRTH」編を含みさらに物語を推し進めている第25話「Air」、最終話である第26話「まごころを、君に」と最終二話のみで構成されている。『新劇場版』では、それまでとは大幅に構成が変更になっているのだが、『：破』の後半1/4位から『シン・』のラストまでが最終二話に相当する部分であろうか。もう一点最終二話に特異的表現があるとしたら、現実と虚構を繋ぐ役割があるという点であろう。最終二話では、第貳拾四話までの物語をメタポジションから俯瞰する構図になっている。第貳拾四話までの虚構を評価対象として、登場人物らが語り合う構図はエヴァを鑑賞して「ああだこうだ」とディスカッションする我らオタクの姿を彷彿とさせる。『旧劇場版（Air/まごころを、君に）』の劇中では、『旧劇場版（シト新生）』の映画を鑑賞している観客の映像が挿入される場面などは、まさに虚構と現実が癒合している状態である。『シン・』でゲンドウが人類に対して「虚構と現実を等しく信じる生き物」と呼び虚構と現実を癒合させることを是としているが、ラストシーンではシンジくんはマリと手を取り合って虚構の世界から現実世界へ飛び出すという「虚構と現実の狭間」を描いているのが最終二話とその発展形としての全てのエヴァンゲリオンのラストシーンであろう。

それを最も分かりやすく描いてある『漫画版』Vol.14のシンジくんとレイの会話から拾ってみよう。ちなみにアニメである『TV

版』『旧劇場版』『新劇場版』ではなく、『漫画版』を用いたかという点、『漫画版』はアニメーションの様に動画・音声・色彩などの要素が無く、静止画と台詞で表現するという制限された表現手段である。よって、台詞がやや説明的となり解釈がしやすいので読解の対象とした。人類補完計画が発動するのは、シンジくんの願いに基づいており「ダレモクルシマナイヨウニ ダレモカナシマナイヨウニ ボクガスベテヲオワラセヨウ アイスルコトモアイサレルコトモ アタエラレルコトモウシナウコトモ モウナニモカンガエナク テスムヨウ スベテガオワッテ ダレモナイセカイニナレバイイ」との内言が端的に表している。つまりA.T.フィールドの無い世界を希望したのである。補完された世界で、シンジくんは半分一体化した（性的に結合した状態）のレイと会話する。レイ「A.T.フィールドを失った、自分の形を失った世界」「どこまでが自分でどこからが他人なのかわからない 曖昧な世界」「どこでも自分で どこにも自分がいない 脆弱な世界」と述べこれがシンジくんの望んだ世界であると説明する。そこは確かに「だれも苦しめないだれも悲しまない 争いも 諍いも 支配も 服従も 飢えも 寒さも 傷みも なにもない 幸せな世界」なのだが、シンジくんは「一度は望んだかもしれないけれど 今は違う ここにはしあわせなんてない悪いこともないけど いいこともない 誰もいないもの 死んでいるのと同じ」と応える。レイが「他人の存在を今一度望めば 再び心の壁がすべての人々を引き離すわ 再びA.T.フィールドがあなたを閉じ込めてもいいの？ 他人という恐怖がまた始まるのよ」とさらに問う。それに対してシンジくんは、「いいんだ 父さんは僕に『人と人が完全に理解し合うなんて不可能だって』言ったけど 綾波 僕はまだそれを確かめていないんだよ 確かめなきゃ僕のこの体で 確かめて結局は苦しむだけで

やっぱりダメだってわかったとしても 一瞬だけなら心を通わせることはできるんじゃないかな あの時の君と僕みたいに」と応えて傷つけあうかもしれない元の世界へ戻る決心をする。『シン・』でも電車の中でシンジくんと会話でゲンドウ自身が内言を始め、人類補完を計画した自分の弱さに向き合う結果となり再開を断念したからこそ妻ユイと再開を果たす。A.T.フィールドの存在意義を巡って人類補完計画の是非を問うこれらのプロセスは、40年近く精神療法家として生きてきた筆者にとって神経症圏の患者が成長し回復していく馴染みの深い体験過程と同一であると感じている。放映当初、最終二話を批判されたからこそ庵野総監督は敢えて最終二話を想起させる内容と手法を25年間の実績と進化を詰め込んで「虚構と現実の狭間」の世界を『シン・』で披露したのではないかと考えている。

5. エディプスコンプレックスと阿閼世コンプレックス

エヴァは、キリスト教的な世界観に彩られている印象を持つ物語である。そもそも「エヴァンゲリオン」という用語が福音（デジタル大辞泉：1. 喜びを伝える知らせ。よい便り。2. イエス＝キリストによってもたらされた人類の救いと神の国に関する喜ばしい知らせ。）を示しており、「使徒（天使）」や「アダム」「リリス」「リリン」などのエヴァの構成要素にはキリスト教を想起させる用語に溢れている。

しかし、エヴァの全てのバージョンで明確に描かれている人間ドラマの主題は「父と息子の相克」と「対人関係の歓びと苦しみ」の洋の東西を問わず出現する普遍的テーマの二点であると筆者は考えている。この二点であれば、思春期外来で頻繁に遭遇するテーマである。前者の父と息子の相克をFreudの提唱

した「エディプスコンプレックス」(Freud, 1909 総田訳, 2008)になぞらえて理解する解説本が多数ある。もちろん表面的には、碇シンジくんが父親である碇ゲンドウとの対決を経てエディプスコンプレックスを克服する過程と理解可能であるが、本小論では古澤平作(1954)が提唱した「阿闍世コンプレックス」と合わせて解説する。エディプスコンプレックスは、息子が母親を愛し父親を憎むという愛欲を巡る葛藤に由来しているが、古澤が提唱した阿闍世コンプレックスは、前エディプス期に関与する概念でありエディプスコンプレックス(母子関係に介入する父親との対峙:三者関係)よりもっと本質的な自己の出生の由来あるいは生命の根源である自己の成り立ちに関するコンプレックス(母親との再同一化への希求:二者関係)である。古澤は、「近親相姦と父親殺しをテーマとするエディプスコンプレックスに対して、母親殺しと未生怨をテーマにする点に阿闍世コンプレックスの独自性がある」と主張しており、「母を愛するが故に母を殺害せんとする欲望」=阿闍世コンプレックスを提示したのである(小此木・北山編, 2001)。「母親殺しと未生怨をテーマにする点に阿闍世コンプレックスの独自性」と小此木らは述べているが、王舎城の悲劇に於いて母親殺しは主題であるとは言い難いと筆者は考えている。確かに、阿闍世は父親が餓死しないのは母親が自分の意に反して父親を助けようとしたことによると気づき、母親を殺害しようとする。しかし、これは「父親との相克」に母親が父親に加担した事への怒りであると考えられる。もちろん、精神分析の主流である三者関係に代わり二者関係に着目したKlein(1957-1963)が乳幼児の早期エディプスコンプレックス論を展開したのが1963年であるから、それに約30年先駆け、1934年に初出した点は慧眼であるのは間違いない。筆者は、王舎城の悲劇に於ける母親の役割は運命に翻弄される(「神

の意志」は人間には理解できない)だけのイオカステと、未生怨を認め自らに起こる不幸の「果」は自己自身の「因」によることを悟り父親殺しに苦悩する阿闍世に献身的に尽くす韋提希夫人との差異が重要であると考ええる。「父親殺し」「母親殺し」にポイントを置く必要はないと考える。実際、阿闍世は殺そうとはするが母親を殺しておらず、エディプスはそうとは意図せず母親を自殺に追いやっている点からするとエディプスの方が「母親殺し」であると考えられることも可能であろう。自分の犯した父親殺しの罪に慄き苦悩する子供に対し、何もできない無力なイオカステではなく、自らの罪を認めて献身する韋提希夫人に転換することで「処罰畏れ型」の罪悪感から「償い型」の懺悔心に至らせることを示唆した点が古澤論文の臨床的な意義深さと考ええる。

先ずは、エディプスコンプレックスから概説する。エヴァが「贖罪を果たす」ことつまり「罪悪感の処理」がテーマの一つであると考えられる。「エディプス(オイディプス:「腫れ足」の意味)」とは、古代ギリシャ三大悲劇詩人の一人であるSophoclesが、紀元前427年ごろに書いた戯曲である。テーバイの王エディプスは、即位以来テーバイは不作と疫病が続き予言により「災いをもたらした先王ライオス殺害犯を追及」するが、それが実は自分であり、しかも産みの母であり先王の妻であるイオカステと交わって子を儲けていたことを知るに至る。真実を知ったイオカステは縊首し、エディプスは自ら母のブローチで目を潰し(目が見えていたなら冥府を訪れた時どのような顔をして父母を見ればよいのかと考えた)、王位を退いて乞食となるまでを描く。劇の前提として、テーベの王ライオスは、「お前の子がお前を殺し、お前の妻との間に子をなす」との神託に基づき生まれてきたエディプスを殺害しようとし、イオカステはブローチで息子の踵を刺した。しか

し、エディプスはコリント王に助けられ実の息子として育てられる。ここでエディプスは「お前の子がお前を殺し、お前の妻との間に子をなす」との神託を受け、両親に迷惑を懸けぬため放浪の旅に出る。スピックスへの対処の神託を受けに来ていたライオスと些細な諍いから名も知らぬ老人として殺害してしまう。その後、怪獣スピックスを倒した英雄としてテーベの王に迎えられる（Jebb, 1966 河合訳, 2017）。

この戯曲から、Freudは「男の子は3歳から6歳にかけて、エディプスと同じように父親に敵意を抱き、母親に対して愛情を求めようとする性的願望をもっている」とみなされる。こうした性的願望は、いうまでもなく近親相関を意味するから禁止されるものである。この願望のおこる時期のことを発達的には、エディプス期あるいは男根期とよんでいる。父親に敵意を抱くために、男の子はその報復として去勢されるのではないかという恐怖をもつようになる。この恐怖が契機となって近親相姦的願望が抑圧され、父親のようになるとする同一視によってエディプスコンプレックスは克服され清算されて発達的には潜在期に移行していく。しかし、思春期に達すると身体的成熟に伴い性的衝動が強くなり、エディプス的願望も復活してくるが、その願望は他の異性に向けられることによって克服される。」との説を提唱する（Freud, 1909 総田訳, 2008）。

それに対して阿闍世コンプレックスは、「王舎城の悲劇」という仏典の中の物語を題材にして成立している。まず、王舎城の悲劇について概説する。インドのマカダ国の頻婆娑羅（ビンビサーラ）王とその妃である韋提希（ヴァイデーヒー）夫人、そしてその息子阿闍世（アジャータシャトル：「未生怨」の意味）の救済の物語である。久しく子宝に恵まれなかった韋提希夫人に可愛い男児が授かる。名前を阿闍世と言う。しかしこの阿闍世が出

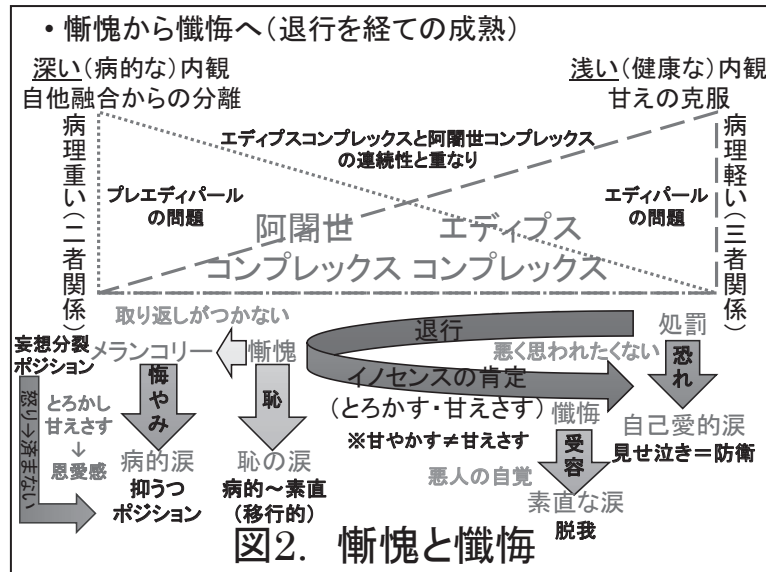
生する時、その両親は大きな罪を犯してしている。韋提希夫人が阿闍世を身ごもる以前、王は子供がいないことを占い師に相談すると、山中で修行している仙人が三年後に命を終えて王子に生まれ変わると予言される。三年が待ちきれない年老いた王と王妃は、仙人を殺してしまう。仙人は死に際に「王は私を殺したのだから私も王の子となって王を殺す」と言い残す。王妃が身ごもったことを知った頻婆娑羅王が再び占い師に相談すると、「この子は大きくなると王であるあなたを殺すことになる」と予言される。迷った王と王妃は、出産の際高樓の上から地に産み落として死なせることにするが子供は地に堕ちても左小指を折っただけ（「折指太子」と呼称）で命は助かる。青年となった阿闍世は、釈尊の従兄弟でありながら佛教教団を乱したり、釈尊の命をねらい教団を奪おうとしたりした提婆達多（デーヴァダッタ）にそそのかされて、釈尊に帰依し外護していた父・頻婆娑羅王を幽閉（王舎城の遺跡にその牢獄跡がある）して自ら王位についた。ところが牢獄に閉じこめられた王は、いつまでたっても餓死する様子はない。なぜなら、王妃である韋提希夫人が自らの身体に食べ物を塗り込むなどして、牢獄の王に食物を与えていたからである。これを知った阿闍世は激怒して母を殺そうとするが家臣に止められる。自らも宮殿に幽閉された韋提希夫人は、かつては生まれようとする実子阿闍世を殺そうと計った罪も忘れて、霊鷲山に向かって悲泣雨涙しながら、自らの不幸を嘆き釈尊に救いを乞う。頻婆娑羅王も韋提希夫人も釈尊や弟子の説教を聞いて、自らの不幸は自らの因縁によることを理解する。後に阿闍世は父を殺した罪に悩み、全身に悪臭を放つ大悪瘡ができた。その際、献身的に看病したのが韋提希夫人である。そして大臣・耆婆（ジーヴァカ）の勧めによって釈尊のもとに赴き、その説法を聴聞し釈尊が月愛三昧に入って放った光が阿闍世に届くと彼

をむしばんでいた大悪瘡はたちどころに癒えたのである。その後、阿闍世は佛教教団の外護者となる（浄土真宗教学研究所編，2000）。主な出典である「観無量寿経」では、頻娑婆羅王が幽閉される場面から物語は始まり韋提希夫人がお釈迦様により救われるところで終わる。王舎城の悲劇の導入部分である「仙人を殺すことで阿闍世が生まれた」という箇所は、唐の高僧善導が著した「観経四帖疏」にのみ記載があり善導の創作と考えられている。韋提希夫人が救われた後の阿闍世救済の物語は「(大乘) 涅槃経」はじめ多くの経典に記載がある（釈，2020）。

この王舎城の悲劇を題材に、浄土真宗の熱心な信者である古澤平作が、精神分析上、「母を愛するゆえに父を殺害せんとする欲望傾向のほかに、生命の本源たる母自身の側の愛欲によって裏切られ、母を殺害せんとする傾向を示す精神病者がある」とのべて、母親に内在する女としての愛欲によって裏切られ見捨てられる子どもの不安と敵意、その敵意ゆえに処罰される恐怖を中心として発展する観念複合体を、阿闍世コンプレックスと名付けた。この名称は、「生まれる子は父親を殺す大罪人となる」という仙人の予言を恐れた母妃が、わざと高い塔の上から自分を生み落として殺そうとしたのを知って、父王を殺害し、母親をも殺そうとしたインドの王子アジャータシャトルの名に由来している。なお古澤は、父によって処罰される恐怖が内在化して生ずる、エディプスコンプレックスにおける罪の意識を『罪悪感』と名付け、母に対して敵意を抱いたにもかかわらず、処罰されるどころか逆に母の愛によって許されてしまった時に生ずる罪意識を『懺悔心』と呼んで、罪悪意識を区別した（小此木・北山編，2001）。筆者（溝部，2018）は、浄土真宗由来の精神療法である「内観」の構造を「懺悔心」から検討している。懺悔が生じている状態では、自暴自棄になる様に自分を裁いている自分が観

ている。自分を分裂させることで、部分対象的観点である「白か黒か」との二分法的思考から、全体対象的観点である「白でも黒でも」との弁証法的思考への転換（相対化）が図られるのだと考えられる。内観は、残虐非道の自己自身を自覚させられる「恥じ入る：慚愧（古澤の言う罪悪感）」を、母親をはじめとした周囲の人間に支えられている事象に焦点化することで「許された」実感から、「自発的に悔いる：懺悔」が生じると考えている。慚愧により「罪が減する」のかと言うと決してそうでは無い。何故なら、大臣にして友人（異母兄弟？）の耆婆の助言で慚愧に至った阿闍世の大悪瘡は回復しないのがその証拠である（鍋島，2004）。釈尊を拒否続けた阿闍世が、慚愧に至って漸く救いを求めて釈尊の元へ出向く。そこで、慚愧が懺悔に至り大悪瘡が消失するのである。慚愧が懺悔に至るプロセスについては、真宗門徒とはいえ古澤程の信仰心に乏しい筆者には理解困難である。何とかそれを未完成ながら概念化したのが（図2.）である。ここで示した「自己愛的涙」は、浅い内観で生じる内観面接者を意識した三者関係に基づくものである。この段階では、内観者はエディパルな問題処理に邁進している。しかし、内観が深まると創造的退行が進み内観面接者の影響（転移）を離れ、二者関係の問題が表在化すると考えている。ここでは、ロクデナシの自己が対象に対して行った酷い仕打ちに対する「恥の涙」が生じると考える。しかし、未だ自己の罪を受け止めきれずに「慚愧」の状態であろう。ここから恩愛感（内在化された被愛対象から受ける愛情）の支えによって、悪人の自覚と共に「素直な涙」が生じることで「懺悔」に至るのではなかろうか。また、完全に観念的推測に過ぎないが、二者関係すら構築出来ない世界から、メランコリーを経て慚愧や懺悔に至る場合もあるのかもしれない。

エディプスコンプレックスで考えると、理



不尽な要求を息子であるシンジくんに対して行うゲンドウの行動は、「親殺し」に相応しいものであろうし、『シン・』の中でも初号機に搭乗するするシンジくんは第13号機に搭乗するゲンドウとシンジくんの記憶の中にある場面で闘うのであるが決着はつかない。何故なら、この闘いは暴力で決着がつくものではないからである。エディプスコンプレックスの「親殺し」の実施のためにもシンジくんは、ゲンドウと対話を始める。A.T.フィールドが存在しない世界を希求するゲンドウは、シンジくんに対してA.T.フィールドを発動させてしまい息子を畏れていることに気付く。シンジくんの「僕と同じなんだね」という台詞に導かれる様に電車の中でゲンドウ自身の生活史の回想が始まる(夕日に照らされた電車中での回想場面は『TV版』より繰り返し用いられている場面)。回想を経て「シンジ! すまなかった」とゲンドウが問題の非が自分にあると気づいたら、シンジくんの背後にある妻ユイの面影に出会うことが叶う。未生怨の原因は父親であるゲンドウ自身にあるとの自覚(懺悔心)がゲンドウを救ったのである。シンジくんではなくゲンドウの親子関係から生じた葛藤が解消されるのであるが、この葛藤の昇華は「ゲンドウの父親に処罰されることが内在化された」と考える

よりも「母親(妻:ユイ)の愛情による許しによりとろかされた」ことにより生じたと考える方がスッキリと理解できる。つまり、エディプスコンプレックスから阿闍世コンプレックスへと展開されて救いに導かれたと考える。エディプスコンプレックスの克服は途中経過で有り、阿闍世コンプレックスを克服することこそが真の人間の成長を促すのでは無からうか。まるで釈尊の様なシンジくんとの対話により、アスカ・カヲル・レイの魂の補完が次々に進み「世界の新たな創生 Neon Genesis」が始まるのであるが、綾波レイには「ここじゃない君の生き方もあるよ、それに後でマリさんが迎えに来る、だから安心して」と別れを告げる。『シン・』の冒頭から半ばまで、自分がニアサードインパクトを起こして人類の大半を死滅させた重さに耐えかねて(慚愧の状態)ひきこもり続けたシンジくんを見守り続けることで古澤のいう通り「罪悪感(慚愧)」から「懺悔心」へ転換させ(とろかし)て回復に導いたレイ(アスカが「初期ロットのおかげ?」と述べた通りレイの癒しの成果)からの自立は大きな意義を持つ。マリの存在が、母親(ユイ・レイ)からの自立を引き起こしたことはエディプスコンプレックスの解消として説明可能であるが、レイの母親としての機能無くしてはあり得な

かったであろう（綾波タイプのクローンには「シンジくん」に好意を持つ様」予めプログラムされていたとしても）。また、エディプスコンプレックスは、母親は欲望の対象であるが故に父親と同一化しようと試みるが母親を（性的に）得ることはできないので父親との相克がメインのテーマとなる。『：Q』で、ニアサードインパクトを引き起こした「罪悪感（慚愧）」から行動していたシンジくんが、自らの命を賭して人類を守ろうとする最後の場面でユイが現れてシンジくんを初号機から脱出させる母親の献身があってこそその「懺悔心」の発動が契機になっている。そもそも「人類補完計画」とは人類が「贖罪」を果たすために企図されたものである。そして、その贖罪は使徒に殲滅されて実行されるものではなく、自らの意志で行うべきものである。自ら進んで行うには、処罰恐れ型の「罪悪感（慚愧）」ではなく許され・とろかされ型の「懺悔心」でなければならない。『シン・』以前のバージョンでは、シンジくんの行動が「罪悪感（慚愧）」に基づくものでありシンジくんの願っている世界にはならなかったのだが、『シン・』では「懺悔心」からの行動が取れるようになった結果が「エヴァのいない世界」の出現であり、平凡な日常的世界となったのであろう。また、『シン・』のクライマックスシーンで葛城ミサトがシンジくんと言う「息子が父親に出来ることは、肩を叩くか殺してあげることだけよ」との説明は、父親である故葛城博士が考えた「人類補完計画」という世迷い言を阻止（計画の抹殺）することでミサトなりに父親を許し乗り越え様としているのである。

「他人の死と想いを受け取れるとは！ 大人になったな、シンジ」とのゲンドウの台詞こそが、この物語の結末であり紆余曲折しながらも、「愛され・認められること」をひたすら願ったシンジくんが、『シン・』のエンディングテーマの主題である“One Last

Kiss”で示される“I love you more than you'll ever know”の様に「愛すること」を覚えるに至る成長の物語であるBildungsroman（教養小説）として終劇となる。そして画面はアニメの世界から、猥雑で美しくもない平凡な現実の世界（庵野総監督の故郷「宇部新川駅周辺」）の実写へ切り替わりエンディング曲（“One Last Kiss”に引き続き“Beautiful World”）が流れるのである。

6. エヴァを貫く生命観

筆者は前回の小論（溝部，2017）で下記のように記載している。エヴァンゲリオンを一貫して流れる思考に、「個別生命」と「普遍生命」の相克が存在すると考えている。特に3.11以降に作成された「Q」では顕著の様な気がする。今回、WILLE（個別生命：Bios, を守る立場）から攻撃されるNERV（普遍生命：Zoé, を目指す立場）の碇ゲンドウに妙に肩入れしなくなった視聴者も多かったのではないであろうか？ライオンキングのテーマ曲“Circle of Life”で歌い上げられる様にBiosとZoéが繋がり合うのが、定番の生命を取り扱う物語である。しかし、手塚治虫が「火の鳥」で、石ノ森章太郎が「サイボーグ009」で、永井豪が「デビルマン」で、さらに宮崎駿が「風の谷のナウシカ」で描くことを目指した「永遠の生命＝神」と人類が対峙する（BiosとZoéがぶつかり合う）世界へ、庵野総監督は足を踏み入れたと考えている。因みにEvaのヘブライ語Chavvah（生命）をギリシャ語訳したのがZoéである。BiosとZoéがぶつかり合いながら繋がり合う物語として、庵野総監督とも親交が深い宮崎駿監督の作品「風の谷のナウシカ」を介して考えてみた。『ナウシカ』は、人類の進化と可能性について語る旧人類が残したシステム（放射能が除去された後にナウシカ達に代わり地球の支配者となるべき本来の

人類の末裔)に向かって「苦しみや悲劇やおろかさは、清浄な世界でもなくなりはない。それは人間の一部だから……」と反論する。「私達の身体が人工で作り変えられていても、私達の生命は私達のものだ、生命は生命の力で生きている。その朝(※筆者注：滅亡の日)が来るなら、私達はその朝にむかって生きよう」と主張する。巨神兵の生き残りであるオーマはナウシカと調停を図り、旧人類が墓所に保存している「新世界」の種である「新人類」ではなく、今を生きているナウシカ(達)に加担する裁定を下し戦士として墓所を破壊する。神(高度に文明が発達して核戦争で死滅した人類)の計画した「観念的な生命そのもの：Zoé」の存在より、「今を生きた個別の生命：Bios」を通してしかZoéが存在する意味は無いとの見解を示しているのが「風の谷のナウシカ」なのではなかろうか。』核戦争である「火の七日間」を経て放射能を浄化する装置である腐海が出す副産物の瘴気に苦しめられながらも粛々と生活を営むナウシカの住む世界は、『シン・』に於いて、ニアサードインパクト後にコア化して人類が住めなくなった大地をWILLEの設置した「相補性L結界浄化無効阻止装置」にてかろうじて人類が生きられるようになっている「第三村」の平凡な日常を彷彿とさせる。そもそもWILLEは加持リョウジ(葛城ミサトの恋人でシンジくんの父親代わり)が志した「生命の種の保存・保護・多様な生命体を自然のままに残すこと」を目的としており「生命の箱舟」がWILLEの主機AAAヴンダーの本来の役割である。つまり、WILLEの本来の目的は、「個別の生命を守ることによって生命そのものを自然に繋いでいく」ことであるので、「人工的に人類を進化させる」という人類補完計画を遂行しようとするNERVとは対立する運命にある。もう一点、庵野総監督作品として大ヒットした「シン・ゴジラ」(庵野, 2017)からBiosとZoéがぶつかり合いながら

繋がり合う物語を見てみよう、『2011年に生じた日本人にとって未曾有の大災害「東日本大震災」での福島第一原発の放射能汚染源であるセシウム137の物理学的半減期が30年で、現実の復興には数十年単位の時間が必要なことと鮮やかなコントラストが浮かび上がる。しかも楽観的予想とは裏腹に、凍結されたとはいえ都心に屹立するゴジラの像は、いつ再開するか分らない「恐怖」と人類の「罪」の象徴として存在し続けるのである。「戦士にして裁定者」であるゴジラの活動再開はあるのだろうか？また、ゴジラと「調停を図れる」ナウシカは現れるのであろうか？ここでも、「かすみを食っている仙人みたい」に生き永らえることが出来る永遠の生命体(使徒に相当する生命の実を食べし者)であるゴジラというZoéに対して、限りある命を生きたしかないBiosである人間(知恵の実を食べし原罪を生きた者)が叡智を用いてどう立ち向かうのかが問われている。』庵野総監督は、シン・ゴジラとは異なりBiosとZoéを調停する役割を選定している。この重責を任されたシンジくんはナウシカの様に見事にその役割を遂行する。『漫画版』で「エヴァ」に取り込まれる直前のユイが幼いシンジくんに「忘れないでね 母さんと約束しましょう この先なにが起こっても世界中の人達の幸せをあなたが守るのよ」と指切りしながら語っている。『シン・』でこの遠い約束をシンジくんは果たすのである。

以前記載した、BiosとZoéの説明では、「Bios vs Zoé」と二項対立する概念の様に説明してしまっている。もちろん、対立概念と捉えても構わない部分は存在するのであるが、「今を生きた個別の生命：Bios」は観念的な生命そのもの：Zoéに裏打ちされてこそ存在可能なものであり決して対立するだけではないのである(木村, 1994)。「リリス vs アダム」「人類(リリン) vs 使徒」「NERV vs SEELE」「WILLE vs NERV」「生 vs 死」と

の構図も単に対立するのではなく最終的には統合することで弁証法的に発展するべきものなのであろう。

シンジくんの成長は、「本当の死が見えないと本当の生も生きられない。等身大の実物の生活をするためには、等身大の実物の生死を感じる意識をたかめなくてはならない。死は水準器のようなもの。死は生のアリバイである。MEMENTO-MORI」と語った藤原新也(2018)を思い出させてくれる。ヴァーチャルではないリアルを生きること、仕方なく人間の生き死にに関わらざるを得なかったが故に「受け止めきれず、逃げてばかりいた」シンジくんが、「他人の死と想いを受け取れるとは！ 大人になったな、シンジ」と言われる様になったのである。こうしてシンジくんは「成仏」したのである。

“Spirituality”を理解せずして「個」をリアルに生きることは困難であるとエヴァを介して老境の筆者は再認識した次第である。この小論を記載することで「私の」エヴァンゲリオンは全て終劇となった。全ての人々のエヴァンゲリオンも無事に終劇に至ったのだろうか？

7. おわりにに代えて「さらば、全てのエヴァンゲリオン。」

エヴァ最後のエンディング曲は『：序』『：破』でも用いられた“Beautiful World”であった。『シン・』のエンディング曲である“One Last Kiss”が終了した後に流れるので、この曲こそがエヴァと別れを告げるに相応しいオーラスを飾る曲であるとの選定なのであろう。二番の歌詞で示されている「It's Only Love 寝ても覚めても少年マンガ 夢見てばっか 自分が好きじゃないの 何が欲しいか分からなくて ただ欲しがって ぬるい涙が頬を伝う 言いたいことなんか無い ただもう一度会いたい 言いた

いと言えない 根性無しかもしれない それでいいけど 僕の世界消えるまで会えぬなら 君の側で眠らせて どんな場所でも結構 Beautiful Word 儚く過ぎて行く日々の中で Beautiful Boy 気分のムラは仕方ないね〜♪」との歌詞は碇シンジくんや碇ゲンドウひいては庵野秀明総監督自身、そして自己の内側に引きこもって「神話になれなかった(神話にならなかった)」全てのオタク達への応援歌であり挽歌であるかのように聞こえる。そして、「残酷な天使のテーゼ 窓辺からやがて飛び立つ ほとばしる熱いパトスで 思い出を裏切るなら この宇宙を抱いて輝く 少年よ神話になれ〜♪」の相聞の掛け合い歌であるようにも感じるのである。

参考文献

- 庵野秀明監督 (2003a). Neon Genesis Evangelion Death Vol.1~8 キングレコード
- 庵野秀明監督 (2003b). Neon Genesis Evangelion Death (True) 2 : Air/まごころをきみに キングレコード
- 庵野秀明監督 (2009). エヴァンゲリオン新劇場版：序 (EVANGERION : 1.11) キングレコード
- 庵野秀明監督 (2010). エヴァンゲリオン新劇場版：破 (EVANGERION : 2.22) キングレコード
- 庵野秀明監督 (2013). エヴァンゲリオン新劇場版：Q (EVANGERION : 3.33) キングレコード
- 庵野秀明監督 (2017). シン・ゴジラ 東宝
- 庵野秀明監督 (2021). エヴァンゲリオン公式サイト (<https://www.evangelion.co.jp/news> 2021年12月17日取得)
- オカルト雑学探究倶楽部編 (2012). エヴァンゲリオン用語・語源事典 学研パブリッシング
- Freud, S. (1909). *Analyse der Phobie eines*

- funfjahrigen Knaben*. Fischer, Frankfurt
(フロイト, S. 総田純次訳 (2008). フロイト全集 (10). ある五歳男児の恐怖の分析『ハンス』岩波書店)
- 藤田直哉 (2021). シン・エヴァンゲリオン論 河出書房新社
- 藤原新也 (2018). メメント・モリ 朝日新聞出版
- 五十嵐太郎編 (1997). エヴァンゲリオン快樂原則 第三書館
- Jebb, R.C. ed. and trans. (1966). *Sohocles: The Plays and Fragments with Critical Notes, Commentary, and Translation in English Prose*, Part 1: "The Oedipus Tyannus" Amsterdam (ソポクレス, 河合洋一朗訳 (2017). オイディプス王. 光文社)
- 浄土真宗教学研究所編 (2000). 顕浄土真実教行証文類 (現代語版) 本願寺出版社
- Klein, M. (1957-1963). *The Writings of Melanie Klein Vol.5 Envy and Gratitude and Other Works*. Hogarth Press, London (小此木啓吾・岩崎徹也編訳 (1985). メラニー・クライン著作集5 羨望と感謝 誠信書房)
- 木村 敏 (1994). 心の病理を考える 岩波書店
- 北村正裕 (2010). 完本エヴァンゲリオン解説 そして夢の続き 静山社
- 古澤平作 (1954). 罪惡意識の二種－阿闍世コンプレックス, 精神分析研究, 1(1) (オリジナル1934 艮陵)
- 宮崎 駿 (1983～1994). 風の谷のナウシカ Animege comic ワイド版 第1～7巻 徳間書店
- 溝部宏二 (2012). 新世紀エヴァンゲリオンにみる思春期課題と精神障害 ～14歳のカルテ～ 追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要, 8, 42-57.
- 溝部宏二 (2017). 罪と贖罪の神話 ～「シン・ゴジラ」「風の谷のナウシカ」から考える「シン・エヴァンゲリオン劇場版:||」～追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要, 14, 35-56.
- 溝部宏二 (2018). サイコセラピーに感動は必要ないのか？～「慙愧から懺悔へ」涙による深化過程～ 内観研究, 24, 13-21
- 鍋島直樹 (2004). アジャセ王の救い 王舎城の悲劇の深層 方丈堂出版
- 小此木啓吾・北山修偏 (2001). 阿闍世コンプレックス 創元社
- 貞本義行 (1995～2014). 新世紀エヴァンゲリオン Vol.1～14 角川書店
- 釈 徹宗 (2020). 「観無量寿経」をひらく NHK出版